

理窓教育会報

第39号

平成24年4月1日

東京理科大学理窓教育会

事務局 大学会館 PORTA 神楽坂7階

巻頭言『理窓教育会発展のため、人材の活用と、新規加入の呼びかけを』

東京理科大学理窓教育会会長 富岡 康夫

理窓会の前身は明治22年に創立され、本会の目的は、「会員相互の親睦を厚くし、併せて学校法人東京理科大学の発展に協力するとともに社会に貢献することを目的とする」とあります。さらに、理窓教育会は、理窓会の関係団体として、小、中、高校の現場の教員の方々やOB、OGの方々の集まりが、会員の能力向上や大学発展のための協力をすることを目的としています。さらに私が重要視するのは、本学の建学の精神である「理学の普及を以て国運発展の基礎となる」の中で「理学の普及」の箇所です。正にこの部分に関わってきた人々が理窓教育会の会員の皆様です。つまり会員一人ひとりが素晴らしい経験を持った人材であります。

さて、キャリア教育の重要性が小中高に留まらず大学でも言われています。我が大学でも、先生方より平成24年度前期から、学生がキャリア発達させていく際必要な態度や能力の育成のために「キャリア発達セミナー」の科目を設置する、つきましては授業のために講演者を推薦する仕組みについて、母体の理窓会と関連団体である理窓教育会を始めとする4団体、官公庁関係の皆様方との会議を開催したいとのご連絡がありました。その会議が早速平成24年2月14日に開催されました。そこで話された結果、今後、理窓教育会の皆様の経験を生かす機会が生まれると確信しています。

私自身、首相官邸に於いて去る平成21年11月25日17時35分より1時間以上にわたる「雇用戦略対話」第1回会合に出席しました。

そこで鳩山由紀夫内閣総理大臣はじめ8人の大臣、4人の副大臣等、日商の会頭、経団連、労働界の皆様の前で以下の発言をしました。「高卒者の就職が厳しいだけでなく、大卒者等の就職も厳しい。高校生の中には大学に進学してもだめなのか、という悲壮感さえ出ている。このピンチをチャンスと捉え、様々な施策で乗り越えることが重要である。（中略）高校のカリキュラムの中に、キャリア教育という視点が新たに加わり、仕事に対する価値観を持たせるという施策が徐々に馴染みつつある。」（首相官邸HPから転載）と、今後のキャリア教育、いわばこれからの若者に先輩方の歩んだ経験を伝えることの大切さを伝えました。

これらを踏まえると、今後ますます、理窓教育会の組織の拡大、充実が求められます。各学校には必ず本学の関係者がいるはずですが、そのような情報を簡単な葉書やメールで頂きたいと思えます。幸い、今年も多くの方が教員採用試験に合格しました。重要なことはその方々が先輩の先生方と交流して成長し、理窓教育会の会員になってもらうことです。全国の学校に本学の関係者がいる利点を大いに生かそうではありませんか。

さらに皆様方のおかげで理窓会主催の「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト高校部門」も第3回を迎えました。作品集はこの種のコンテストの中で日本一の質・量になったと自負します。生徒たちには高校時代の記念碑となり、先生方には指導教員として顕彰し、交流や授業改善へと多くの効果を目指し

ます。

最後に会員皆様方のご支援で理窓教育会の益々充実、発展を切に願っております。

(私立文華女子中学・高等学校長)

支 部 報 告

北海道支部総会報告

支部長(52理工物)石谷 克彦

北海道支部総会は懇親会を兼ねて平成23年9月3日(土)午後6時から、生憎の雨天の下、札幌市内で開催いたしました。大変残念なことに参加者が7名という、少人数の総会・懇親会となりました。

総会では、会長ほか役員を選任等が行われた後、佐藤文彦支部幹事長より会員の出欠確認の状況を含めながら会員数や会の現況等について説明がありました。新会長には私が選任されましたので、以後宜しくお願いいたします。「参加者はもっと多いと思った・・・」というのが参加者の共通した感想であり、次年度に向けて参加者を増やすにはどんな取組が必要なのか、これが総会と懇親会の大きな話題ともなりました。

懇親会では参加者が自己紹介を含めて近況報告を行いました。現職の校長や教諭、私立高校教諭、予備校講師などの異なる立場、異なる経歴を持った方からのお話であり、日頃はあまり耳にすることのない話でしたので皆さん大変興味深く聞き入り、気がつけば2時間が経過していたという、時間を忘れての有意義な懇親会となりました。次年度には参加者倍増の会としたいものです。

理大教育会北海道支部には百数十名が会員登録されております。北海道という広大な土地柄もあり遠方からの参加が大変難しいという会員も多いのですが、次年度には、毎年4月に開催される北海道理窓会の参加者数を超えるべく年度当初から計画を練って参りたいと考えております。

岩手支部総会その他報告

支部長(48理工数)菅原 通

昨年3月11日、千年に一度と言われる東日本大震災が発生しました。地震と津波により岩手県でも理窓会員が居住あるいは勤務する沿岸部を中心に想像を絶する被災があり、勤務する学校や職場で被害にあわれた方がたくさんいらっしゃいました。電話連絡が長い間通じない方もいらして会員の安否確認にも時間がかかりました。当会には死去された方がいなかったことが不幸中の幸でした。今後はこのような震災の生じないことと早い復興を願います。

1 理窓会総会その他

東京理科大学より吉本成香理事・森野芳男維持会会長・増渕忠行理事からそれぞれ大学や維持会そして理窓会について詳細な報告があり、大学の現状と今後の発展について理解が進み大きな期待が膨らみました。また、会員より「支部活動活性化のためにも、なにか節目の年に理窓会の全国大会を開催できないか」との提案がありました。本部には増渕理事を通じてお伝えしましたし、24年度理窓会総会でも私からも理事会などをお願いしたいと思っております。なお、支部総会参加者が全国平均を下回っています。これを期にたくさんの方が参加する総会を工夫していきます。

理窓会教育会の講演会では、お二人からパワーポイントを使用しての講演がありました。北里大学名誉教授の野村先生からは東日本大震災での岩手県沿岸部の被害とご自分の貴重な被災体験について、宮古工業高等学校副校長眞岩先生からは勤務する宮古工業高校でのご自分の貴重な職務体験について講演いただきました。特に眞岩先生からは「1復興のための国の予算と県の予算その他の調整、2支援に対する対応(会計処理、物品の場合の調整、敬意の表し方その他)、3唯一被災場所に戻った同高の防災対策、4生徒の心のケア」その他勤務校での切実な課題が報告されました。改めて津波の怖さや被害の大きさそして復旧・復興のむずかしさと被災に対する私達の受け止め方の差を感じました。そしてなによりも今後を考える貴重な講演でした。復興や災害マニュアル作成では現場の声をきちんと生かして欲しいものです。出席なされ

ていた本部役員も被災の大きさに心底から驚き復興の困難さを感じられていました。また、この場で森野副会長より被災高校にお見舞いいただきました。

2 岩手支部の支援活動

岩手支部として、大槌町の被災者小国さんそして会員が勤務する高田高校、宮古北高校、宮古工業高校にわずかですが義援金（使途は学校長に一任）その他お届けしました。必要であれば次年度も予算その他検討しながら実施する必要があるかと思いません。

3 23年度経過

ア 6月4日第1回事務局会議（石川、菅原、千葉、眞岩、福士、阿部）盛岡市

イ 6月8日被災者小国さんのお見舞い（菅原）大槌町

ウ 6月19日

- ・支部長会議（菅原）東京都
- ・代議員総会（石川、菅原）東京都
- ・こうよう会（千葉、福士）盛岡市

オ 11月26日

- ・総会（ホテルエース出席者23名）盛岡市
- ・こうよう会総会（サンセール盛岡 菅原）

カ 12月20日 高田高校、宮古北高校、宮古工業高校お見舞い（菅原）

キ 3月吉日 岩手支部会報発行

報担当、研修担当）顧問若干名（支部長の諮問に応じる）とし、役員の任期3年を2年にする案を提案し、全て承認されました。このことにより、理窓会に付属した組織になりますが、対外的には独立した組織として機能することになります。また、役員の改選があり、支部長には佐藤幹彦が再選されました。

総会終了後、本部から見えられましたお二人の先生方から大学と理窓会の現状についてお話しを頂きました。

その後秋田県内を中心に活動している「ドルチェ」の演奏会を開催し、ラ・クンパルシータや浜辺の歌などヴァイオリンやフルートの生の音楽を楽しみました。

しかし、時間の制約等の理由により、恒例の会員による講演会を持てなかったのは残念なことでした。

懇親会では、こうよう会秋田支部長の安田基樹さんからご挨拶を頂きました。今年は「こうよう会」から4人の役員が参加され会が大変盛り上がりしました。今後は、「こうよう会」との連携を深め、会を活性化させたいと考えております。

最後に参加者から一言ずつお話しして頂き、和やかな楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

秋田支部総会報告

支部長 (45S)佐藤 幹彦

平成23年度の理窓会・理窓教育会秋田支部総会は、10月23日（土）、秋田市の「イヤタカ」で午後3時より、開催されました。来賓として東京理科大学より理事長の塚本先生、理窓会常務委員の増渕先生、こうよう会秋田支部長の安田基樹さんをはじめ4名の役員の方々をお迎えして、盛大に開催致しました。

理窓会に引き続いて、理窓教育会秋田支部総会を開催し、今回の目玉である規約の改正を提案しました。年会費1,000円は全額教育会本部に納めるので秋田支部には運営資金がありません。それで、理窓会と合体し、教育行政部会・学校部会を廃止する。教育会の役員を支部長1名、副支部長1名、庶務・会計1名、幹事若干名（会

山形支部総会報告

理窓会山形支部長 (43K) 佐藤 利男

はじめに東京理科大学理窓教育会山形支部の状況からお話いたします。本県の場合は、理窓教育会山形支部としては組織化されておりませんが、その最たる理由は理窓会山形支部の会員の多くが教員関係者であり、かつ理窓会山形支部総会の出席者の多くもそうであったことが挙げられます。それゆえ新たに組織化はなされず一元化して運営されてきた経緯があります。しかし近年は、理窓会山形支部会員に公務員や民間企業勤務、さらには自営業と同窓生の活躍も多岐にわたるようになり、理窓会山形支部としても各学部の出身者を加えて活性化に努めているところです。それゆえ理窓会山形支部の活性化をはかりながら、その延長上で理窓教育会の充実発展につなげたい

と考えております。

その一元化した理窓会山形支部総会は、県内各地区持ち回りで年一回開催し情報交換と会員相互の親睦をはかって参りました。平成23年度は、最北地区主管のもと大正ロマン溢れる銀山温泉で開催しました。大学から渡辺常務理事、理窓会本部からは増淵常務員にご出席いただき17名の会員の出席のもと懇親を深めました。平成24年度の総会は山形市で予定しております。

ところで本県教育界の現況に敷衍したいと思えます。これまで卒業生が最も多く活躍しているのは教職関係者としてです。大学の免許状取得状況からも、必然的に高等学校や中学校の教員として活躍している卒業生が多くなります。本県には高等学校69校（公立53校・私立16校）、中学校115校がありますが、県教育委員会の幹部として、高等学校や中学校の管理職として活躍をしている同窓生が多数いる現況は、東京理科大学卒業生としての面目躍如と言えるかと思えます。同窓生としても嬉しい限りです。ただご多分にもれず本県の教員採用枠も狭き門ではありますが、実力十分な卒業生の挑戦をご期待申し上げます。今後は、在学生の保護者会（こうよう会）とも連携しながら、支援できればと思っております。どうぞ理窓会山形支部にご一報いただければ幸いです。

茨城支部総会報告

支部長（46B）小林 康則

平成23年度の、東京理科大学理窓教育会茨城支部総会は、去る9月10日土曜日、水戸市の県民文化センターにおいて12名の参加のもと開催されました。（太子の研修センターは、3月11日の大震災で福島県からの避難所として活用中ということでした）

近況報告を兼ねた自己紹介の後、恒例の議案になっております会計の逼迫状況について討議されましたが、なかなかよい案が浮かばず、次年度には備蓄金も底をつき、いよいよ赤字団体に転落かという見通しです。経費削減の一環として、今年度は副支部長が中心になって100名ほどeメールでの連絡を導入し、1万円弱の節約が出来ま

したが、単年度での黒字化には不十分です。総会の案内を受け取るためだけの年会費500円を1000円に値上げするのはたいへん心苦しいのですが、止むを得ないかという状況です。

その他に、話題の一つとして、大学側は茨城県に附属高校を作るような考えはないのだろうかというものが出ました。生徒数減少の折難しいのではないかという意見もあり、一方つくばエクスプレス沿線なら十分ニーズがあるのではという意見もあり、近隣の進学校は困惑するだろうという意見もありました。茨城県では10年ほど前スーパーサイエンスハイスクール(SSH)と称する制度を発足させましたが、補助の適用は3年間です。もし理科大学の附属高校が出来れば半永久的なSSH高校が誕生するわけです。理学の普及を持って国運の発展に期すという建学の精神にも合致するのではないか・・・と身勝手な夢でした。

昼食後、詳細は割愛しますが、県の教育研修センター所長の矢田部さんから教員研修の現況について、また龍ヶ崎一高教諭の小林さんから生徒の挑んだ算額や英語での数学授業等のそれぞれの現場での活躍の様子を発表していただき、多くの質疑応答の中、和やかに無事閉会しました。

群馬支部総会報告

支部長（51B）猿谷 亮司

平成23年度群馬支部総会は、平成23年11月26日（土）午後1時30分から前橋市のアニバーサリーコート ラシーネで、16名の会員の出席のもとに開催されました。

理窓会群馬支部長深澤知明氏（49 応物）に続き、来賓として出席いただいた理窓会常務委員水野澄氏のご挨拶がありました。理窓教育会群馬支部長の奈良正幸氏（49 S）太田東高校長がご退職されたため、猿谷亮司（富岡東高校長、51B）が新支部長に就任しました。群馬県総合教育センターを会場に開催される「ぐんま教育フェスタ」で、東京理科大学学長藤嶋昭氏が特別講演される旨の紹介がありました。

特別企画としては、東京理科大学出身の歌手である祥子氏による「祥子コンサート」

がありました。「帰ろかな大阪」などの音楽とともにトークを交えながらの楽しい憩いの一時となりました。

その後の懇親会は、祥子氏を囲む会となりました。各出席者の近況報告もあり楽しく和やかに過ごしました。話の中で、最近、出席者が少なくなったという指摘がありました。確かにその傾向にあります。企画内容を充実させることは勿論ですが、会員同士が知り合いを誘い合って出席していただくと有り難いと思います。以上で、群馬支部の報告とさせていただきます。

埼玉支部総会報告

支部長 (52 修 K) 倉橋 常雄

平成 23 年度埼玉支部総会は、平成 23 年 12 月 10 日 (土) に、上尾駅前の東武バンケットホールを会場に、理窓教育会長の富岡康夫先生をお迎えして、参加者 29 名で開催しました。総会においては、埼玉支部長、理窓教育会長の挨拶の後、役員改選、事業報告・会計報告、次年度の事業計画・予算案が協議され、原案が承認されました。富岡会長からは坊ちゃん科学賞など大学の報告がありました。総会後は、本会の参与であり、現在、日本薬科大学教養教育センター長をされている野澤直美先生を講師に「高大接続の課題」と題して講演をお願いしました。野澤先生は、具体的なデータに基づく大量の資料を用意され、パワーポイントを使って分かりやすく説明されました。高大接続については、少子化、受験生の履修科目、学力低下、大学の全入時代、高大接続テスト等の課題について幅広い観点から詳しく説明して頂きました。

講演の終わりに、1%の累積の違いについて、1.01の365乗と0.99の365乗の数値を上げて、日々の努力の大切さと、セレンディピティの話をされました。内容が豊富で、示唆に富んだ講演でした。野澤先生の講演を目的に参加された方も多く、先生の御人徳と敬服致しました。

講演会後の懇親会では、富岡会長から理数教育について、文科省の施策等について

話がありました。その後、各参加者の自己紹介や近況報告、情報交換等があり、大変有意義な会になりました。最後に、円陣を組んで理科大校歌を合唱し、盛会のうちに閉会しました。

東京支部総会報告

支部長 (48K) 富岡 康夫

平成23年度の東京理科大学理窓教育会東京支部定期総会は5月22日(日)午前11時30分より、東京理科大学神楽坂校舎3号館333教室で行われた。例年のように今年度も理窓会東京支部総会が開催される同日に本総会を開催することとなった。学校では4月の始業式、入学式の緊張の日々から生徒、教員も慣れて落ち着くこの時期がふさわしいと考えて開催している。様々な会が開催される時期であり、特に土曜日の午後は学校行事が重なり出席出来ないことも多くあり、日曜日に理窓会東京支部と同日開催している。

総会は竹村精治高校部会部長の司会で始まった。挨拶を理窓教育会長東京支部長の富岡が行った。故酒井淳会長の後の会長を仰せつかり身の引き締まる思いで、責任の重さを実感している。皆様のお力添えでこれからも伝統ある理窓教育会、理窓会、東京理科大学の発展の為に全力を注ぐ覚悟である。さらに、今後の理窓教育会の発展のために会員拡大のお願いと決意を述べた。

つぎに報告および議事に入り、運営委員会の各部会報告があった。特に坂本指導委員会委員長より教員志望の学生の現状説明があり、また全国組織の状況の報告があった。22年度の会計報告と平成23年度の活動方針(案)と役員改選(案)についての説明があり、満場一致で了承された。引き続き富岡が支部長を担うことが了承された。

松原担当理事より10月30日(日)実施の「第6回ホームカミングデー」への参加の呼びかけ、富岡の「第3回坊ちゃん科学賞」への勤務校からの投稿のお願いがあった。

本総会終了後、1号館記念講堂に移動し理窓会東京支部と合流した。大学より渡部恒夫常務理事より大学の現状の説明、山田義幸理窓会会長より理窓会の活動報告と森野義男

維持会会長の維持会拡充第2期募金の説明があった。講演会はHOYA(株)ビジョンアカンパニー開発部木谷明フェローの「累進レンズ開発にあたって」であった。日本人ならではのきめ細かい一人ひとりに合ったレンズ開発の苦労話を伺った。懇親会は楽しく、話の尽きない会であった。特に藤嶋昭学長の熱意とウィットに富んだお話に一同が感激をし、参加者の交流が進んだ会であった。

千葉支部総会報告

支部長 (40S) 水野 澄

理窓教育会千葉支部総会は、今年も教職員部会総会に続き、千葉支部総会という形で、平成23年8月21日に、炎天下の中、千葉市のポートプラザちばで行われた。

【千葉支部総会】

輪になって校歌謳いあげて閉会す

8.21(日) 千葉支部に会員71名が集う

まず、活動方針を審議し新年度の活動・協力支援体制などが決定された。

大学からご来葉の藤嶋昭学長から「大学教育の指針」、澤芳昭常務理事は「大学の現況」、続いて森野義男維持会長から「募金報告と今後の展開」、そして理窓会山田義幸会長には「理窓会の活性化と課題」についての講話を拝聴できました。

記念講演 「山登りでも始めてみませんか」岩崎元郎 先生(無名山塾主宰 日本登山イストラリターズ協会理事長)では、豊かな自然との交流、生き甲斐と人生など示唆に富んだお話をじっくり伺いました。記念写真の撮影後、ほぼ全員が懇親会参加、鯉淵支部相談役の歓迎の辞、ご来賓の紹介、スピーチは近県支部代表(東京は松原秀成支部長、並木榮一代議員、神奈川鈴木幹久支部長、埼玉高野正幸顧問、小林美喜夫副支部長)、こうよう会富所裕子千葉支部長から。理大関係の方々も多数お見えでご支援いただきました。特筆すべきは、飛び入りの「手芸芸」(清水建設鈴木靖氏)の秘技に喝采、懇親会の盛り上げ役としても大好評でした。

活性化が共通課題、まず足元、近県4支部連携、理窓会、そして母校のさらなる飛躍を念じ、フィナーレは全員が肩を組んで

校歌高らかに謳い、再開を誓って散会となりました。(文責 水野澄)

【教職員部会総会】

支部総会に先立ちまして、教職員部会総会を実施しています。宮崎教職員部会会長以下39名参加。内容は、平成22年度事業報告、会計報告、平成23年度事業計画、予算案、新役員の選出、名簿の発行などです。上記の支部総会も教職員部会が主催します。

その他に、教職員部会の活動として、いくつか報告します。

役員会 6月12日(日) 宮崎会長以下32名

・平成23年度教職員部会総会、支部総会の議題及び実施要項について 他

・懇親会

研修会 7月31日(日) 宮崎会長以下34名

・研修会 【いつもにこにこ研修の理窓会】を合い言葉に、教員の資質向上を目的に年1回実施しています。

・懇親会

会報発行(第41号) 12月1日(水)

・800部発行します。千葉県内の理窓会員のいる公私立高等学校に配布します。

新春懇談会 1月22日(土) 宮崎会長以下18名参加

・講演会 企業人部会主催ですが、教職員も参加し企業人の方と親交を深めます。

・懇親会

千葉県の理窓会の教職員ができるだけたくさん仲良く楽しく活動できるようこれからも努力していきたいと思えます。

(文責 伊藤克人)

神奈川支部総会報告

支部長 (41B) 鈴木 宏司

理窓教育会神奈川支部総会は、理窓会神奈川支部定期総会と兼ねて行うのが恒例になっている。平成23年度支部定期総会は、平成23年7月9日(土)、横須賀セントラルホテルにて開催し、参加者は来賓の方等を含めて70名という盛会なものであった。

総会は塚本理事長、森野維持会会長、山田理窓会会長からのご挨拶があった後、議事に入り、22年度事業報告、収支決算報告、そして23年度事業計画案、収支予算案が滞

りなく承認された。

議事終了後、藤嶋学長による「物華天宝 人傑地霊 自らを高めよい雰囲気を作ろう」という題目の講演会を開催した。物華天宝とは天に隠された宝・科学の成果であり、科学者はそれを表に出し人々の生活に役立てる。そうした科学者を育むのには地盤・雰囲気が大切であると強調された。光触媒研究とその応用についてエピソードを交えて興味深く話をされた。若い世代に向けての様々な活動や雰囲気作りの取り組みも紹介され、大学内に開いた塚本・藤嶋新書文庫は好評との事であった。

その後会場を移して行なわれた懇親会は、来年度総会担当の鎌倉・湘南地区幹事長・石渡氏の挨拶等を挟みながら和気藹々のうちに進行し、最後は全員で校歌を合唱し、お互いの再会を約しながらの解散となった。

以上ですが、いつも併せて報告している「神楽会」（県立高校の管理職の会）の方も、同窓の管理職が更に増える事、お互いの絆が一層強まる事を期待・確認しながら、年2回の集いは無事に終了しました。

山梨支部総会報告

(53B) 橋田 多喜夫

山梨県支部総会は、毎年理窓会山梨県支部総会と合同で開催しています。本年度は平成23年10月1日(土)16時から甲府市「ニュー芙蓉」で、13人の参加のもとで開催されました。

東京理科大学常務理事 村田雄司先生、東京理科大学理事・維持会会長 森野義男先生、理窓会事務局長 山下正様のご臨席と、来賓として諏訪東京理科大学経営情報学部教授 松岡隆志先生、こうよう会山梨県支部支部長 篠原利枝様、藤本チフミ様をお招きして行われました。

村田先生から東京理科大学の現状と将来の展望を、森野先生から維持会の活動報告等を、山下先生から理窓会の現状と今後の展望についてのお話をお聞きし、大きく変化し発展を続ける母校の様子を頼もしく感じました。また、松岡先生から諏訪東京理科大学のお話も聞くことができまし

た。我々同窓生は、この支部総会を期に、より一層結束を固め支部の発展はもとより、東京理科大学と諏訪東京理科大学の発展に力を尽くすことができると、意を新たにしました。

本年度も支部総会前に、本支部会員による講演会を実施し、齊藤雅樹様に、新薬の開発研究の様子を「新規抗不整脈薬の合成と薬理作用に関する研究」という演題でご講演をいただきました。

また、今年度もこうよう会山梨県支部会員をご招待しました。理窓会・理窓教育会と、こうよう会との親交を深めるとともに、この交流は今後も続けていきたいと考えています。(事務局 窪田 敏章)

静岡支部総会報告

支部長(55 修薬)樋口 和男

平成23年度支部総会は平成24年1月21日(土)に静岡市で開催された。

○大学近況報告

最近訪問した神楽坂の変貌や葛飾キャンパス建設など大学の近況が報告された。

○県の採用状況の問題

本県教員採用数が少ない現状に対し、大学での指導が効果を発揮して採用が増えていく県もあることから、本県での採用者を増やすための対策の必要性が訴えられた。

○懇親

各会員から近況報告・情報交換の中で、昨年の本県中部理窓会でも討議され結論が持ち越しになっている、算数指導についての話題は数学教育に関する会員の思いが伝わったので紹介する。

議論の内容は「3人に色紙を4枚ずつ配るには、色紙が何枚必要か」(有名新聞への投稿から話題になった)に関し、算数の式の立て方として、「 4×3 」を正解とし「 3×4 」は間違いとしている算数指導への意見である。

答えが同じなら良いのではなく、正しい考え方を教えるべきとの意見は一致した。しかし「一つ分の数 \times 幾つ分=全部の数」と教えているのだから「 3×4 」では単位が12人となってしまふとの意見、3人に4枚ずつ配るのであれば3[人] \times 4[枚/人]

となり、この考えも正しいとする二つの意見で討議された。さすが理窓生、数学・理科、小・中・高の違いとそれぞれの指導への思いが伝わる熱い議論が続いた。結論が出ないままであったが楽しい算数談義の時間であった。

富山支部総会報告

支部長 (500S) 吉本 久信

理窓教育会富山県支部総会は、理窓会富山県支部定期総会と兼ねて開催している。本年度は平成23年7月2日(土)14時から富山地鉄ホテルにて来賓を含め17人の参加者のもとで開催された。

総会は、本多宗高会長のあいさつに続き澤明弘常務理事、山田義幸理窓会会長、森野義男維持会会長からご挨拶があった後、議事に入り、22年度事業報告、会計報告が承認された。その後、教育会から県下の教育状況について、県の教育施策、教員採用状況等の観点から報告した。

議事、協議終了後、立山カルデラ砂防博物館学芸課長飯田肇(22理・化)氏による「立山の雪氷ー氷河の可能性ー」という演題で講演会が開催された。平成22年9月6日から52日間に及ぶ計測により、立山の雪渓には、30mの氷体の存在や年間4mの流動速度が確認され、ヒマラヤなどの氷河に匹敵するという話に全員が聴き入った。

その後、参加者全員で記念撮影し、懇親会に入り、本多会長の情熱溢れるお話の後乾杯、懇談に入った。

個人情報保護法施行以来、新規会員の情報が入手困難になり、会員数を増やす手立てが、風聞に頼らざるを得ない状況になっている。そのためか、総会の参加者が固定し、参加数も減少してきている状況である。10月1日に、総会への参加者数の増大について、開催時期、曜日、声かけ等について意見を交わし組織拡大に向けて取り組んでいる。

熊本支部総会報告

支部長 (56S) 桑崎 剛

理窓教育会熊本支部は例年、9月の第3

土曜日に理窓会熊本支部との合同開催で総会を実施している。

本年度も、山田理窓会長様に加え、森野理窓会維持会長様もお迎えし、9月24日に熊本市の繁華街にある鶴屋デパート「カーネーションサロン」にて理窓会熊本支部と合同で総会を開催した。益山熊本支部長の挨拶の後、山田理窓会長様と森野維持会長様より、大学の現況報告が詳しく説明があった。その中でも先の大震災における大学の被害状況やその対応、また、被災地出身の学生に対する対応や支援についての説明があり、特別な奨学金等の準備に関しては、震災の影響がほとんどなかった九州の同窓生もホッと胸をなで下ろしたところであった。葛飾の新しいキャンパスに関する報告も発展する母校に期待する声が多かった。

また、熊本支部の活性化についての議論では、若手の加入の促進の問題や県外からの転勤者への広報など、課題についての議論となった。そこで、熊本県内のブロックごとに地域の担当を決めて、総会へ案内等と呼びかけるなど、会員の参加についてコンタクトをとる取り組みを検討した。教育会熊本支部単独での独自事業も検討したが、年々、支部における教職関係者の割合も低下ぎみにあり、組織力の強化が優先との結論に至った。

坊っちゃん科学賞 (高校生部門)について (48B) 菅井 悟

理窓会と理科大が共催し、高校生を対象とする研究論文発表の場として設けた「坊っちゃん科学賞」は今年で第3回目を迎えました。

理数科設置高やスーパー・サイエンス・ハイスクール指定高、首都圏内8県、長野・山口県、理窓教育会推薦の学校など、全国1700校に参加を呼びかけた結果、17都道府県から、32高校、57点の応募がありました。分野別は物理9点、化学13点、生物21

点、地学3点、数学情報等7点、その他4点でした。参加生徒総数は139名でした。

9月10日に、理窓会並びに理窓教育会の協力を得て、優秀論文候補を選定した後、大学関係委員による全体審査で、優秀賞5点、優良入賞25点、入賞13点、佳作14点を決定しました。10月30日のホームカミングデー当日には、2号館階段教室で、優秀賞受賞者5組による発表会を行いました。満員の聴衆を前に、15分間の発表・質疑応答を無事終え、みごと最優秀賞に輝いたのは、「丹波黒（黒大豆）の育苗期の生育が収量構成要素に与える影響」を発表した兵庫県立篠山東雲高等学校のしのめ黒大豆研究チームでした。育苗期の生育条件が収量にどう影響するのか、基礎的かつ実証的な研究に取り組み高く評価されました。秋山仁審査委員長の講評の後、表彰式が行われ、藤嶋昭東京理科大学学長より、記念の盾と副賞が贈られました。発表のあった残りの4点の研究のいずれもすばらしいもので、なかでも放射性降下物や数学の発表は話題となりました。

◇「沈着した放射性降下物からの空間線量率の解析」

愛媛県立東温高等学校 木村唯香

◇「蓄糞の有効資源化に関する研究～エネルギーと化学肥料が採取できるか？～」

岡山県立高松農業高校

畜産科学科小家畜専攻

◇「徹底研究！水の汚れと酸化剤～有機化合物の構造と過マンガン酸カリウム消費量に関する研究」

福岡県立鞍手高等学校科学部

◇「一本の紐でつくる図形の面積の最大～多角形から円への収束まで～」

明治大学付属明治高等学校 山崎開平

なお、今回応募のあった研究論文は、第3回坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト作品集として2月末までにまとめ、関係高等学校あてに発送を予定しています。

坊ちゃん科学賞は、研究内容や応募状況など年々充実してきていますが、さらな

る発展のためには、論文審査や発表会の運営などでの理窓会や理窓教育会の協力が不可欠です。今後もよろしくご支援・ご協力をお願い申し上げます。



新規採用教員・管理職選考合格者・退職者激励会について

(45B) 松原 秀成

平成24年3月3日（土）理窓教育会東京支部の主催の教員採用試験合格者・管理職選考合格者・教員退職者激励会がポルタ神楽坂7階第2会議室にて開催された。

東京理科大学藤嶋昭学長・澤芳昭常務理事・山田義幸理窓会会長・船木真左美こうよう会会長をはじめとしてご来賓5名、現職・OB教員、今年度の教員退職者、管理職試験に合格された会員等34名の出席と、新規採用教員予定者は60名、総数約100名が出席し盛大に行われた。

松原秀成理事の司会で会は始まった。會田良三理事の開会の挨拶に続き、来賓としてご出席の塚本桓世理事長代理澤芳昭常務理事のご挨拶があり、合格した学生たちへの応援エールが送られると同時に全国に多くいる理科大学卒業の先輩達からたくさん学んで欲しいとのお話しをいただいた。藤嶋昭学長からは良い本をいっぱい読みなさいと応援メッセージをいただき、さらに学長の著書が学生全員に贈呈された。教職課程指導室の坂本功先生の合格状況の説明の後、合格者を代表して、東京都公立学校高校理科に合格した高水悠佑君が、感謝の意と教職活動をしていくための決意表明を力強く宣誓された。

次に教育管理職選考試験合格者が武内愛

樹町田市立堺中学校長より紹介。管理職選考の選考方法が以前と異なってきたので、変化に対応する対策が必要だとの話があった。小久保正己理事が閉会の言葉を述べた。

引き続き、榎本成己理事の司会で懇親会に入りました。ご来賓としてご出席の教職支援センター長の眞田克典教授から励ましの言葉、こうよう会船木真左美会長からも励ましの言葉をいただいた。元気な教師の卵の諸君からは自己紹介と教師としての熱い抱負が述べられ、和やかな雰囲気の下、同窓としての先輩・後輩の絆を深めつつ散会した。

同窓の活躍

数学教育研究会と私

東京都立日本橋高等学校長
(510S)竹村 精治

昭和51年3月に応用数学科を卒業し、4月より東京都立墨田工業高等学校に奉職しました。半年が過ぎた頃、数学科の先輩が私を東京都工業高等学校数学教育研究会（工数研）に連れて行ってくれました。これが私の数学教育研究会への関わりの第一歩です。このようなきっかけがなければ研究会に足を踏み入れることはなかったかもしれません。大変感謝しています。

工数研から日本数学教育学会（日数教）の特別委員会（スローラーナー委員会：植竹恒男委員長）へ出るように言われ日数教への関係が始まりました。それまで、生徒指導、教科指導に追われ、日数教の存在も知りませんでした。その後、特別委員会での活動がご縁で、日数教研究部幹事を十数年務めさせていただきましたが管理職になったため辞任しました。研究部幹事時代は、現在も続いている大学入試懇談会の運営や全国大会へ向けての基調発表の作成、教育課程委員会委員として活動をさせていただきました。また、研究部幹事の方の多くは教科書等の執筆者であり、研究以外の雑学も沢山学ぶことができました。

東京都高等学校数学教育研究会（都数研）との関わりは、墨田工業高校にコンピュータ室を作るために先進校から教を請うたのがきっかけでした。教を受けた先生の紹介で、昭和54年から研究部学習指導法分科会へ参加するようになり、現在まで続いています。

30年近く前の話になりますが、分科会に都から依頼があり、高等学校に導入するコンピュータの選定員をさせていただきました。その頃、コンピュータの活用機能としては、提示機能、シミュレーション機能、高速計算機能等でした。処理速度と記憶容量こそ格段の違いはありますが、現在でも活用機能は変わってはいないのではないのでしょうか。

その後、学習指導法分科会の世話人をしていただき、組織の運営も経験させていただきました。その頃、分科会の組織改革をさせていただき、学習指導法分科会の下に、興味関心班、考え方班、不思議調査班などを作り、運営を各班の班長に任せ、分科会には二月に一回報告をするシステムにしました。それまでの分科会は、個人研究の紹介・協議が主流でしたが、集団研究を主流としたのです。それぞれの班は活発に活動し、不思議調査班では「秋山仁と算数・数学不思議探検隊」（1994、森北出版）を出し、今でも売れているようです。

平成10年度、私は教頭となり、分科会には籍を置いてはいましたが、参加は減り、研究部副部長として特別委員会の運営に携わりました。その頃より、新規採用教員の大幅な減少、教員の多忙化、教育委員会からの助成金打ち切りなどから研究会活動が低迷し、本分科会でも興味関心班だけが残りしました。現在は、興味関心班のメンバーが中心となり、学習指導法分科会として活動を続け、毎月20人近い参加者があるまでに盛り返して活動を続けています。校長となった平成20年度より、私もできるだけ参加するようにしています。若手の入会も増え、他の分科会も活動が活発化しています。

私は、研究会終了後の懇親会を大切にしています。懇親会では、自由な雰囲気でおいおいと楽しく語り合っています。この時

間が研究への活力となり、絆が強くなっていくと考えています。

平成23年度から、都数研の会長を務めています。研究活動の活性化と会員の増加は、鶏と卵の関係であると考えます。5年前から一泊の研修・懇親旅行を始めました。毎回20人程の参加者があり、絆を強めるよい機会となっています。

都数研は64年の伝統ある研究会です。その実績と評価は、これまでの学習指導要領の改訂の度に学習指導要領解説「数学編・理数編作成協力者」を毎回複数輩出していることから分かります。この伝統を活かし、後輩教員の育成と数学教育の改善に少しでも寄与できればと思っています。

平成23年8月に日数教の副会長に選出されました。日数教も会員の増加を課題としており、さらに魅力ある学会となるべく改革に取り組んでいます。平成30年には、東京理科大学を中心として第100回記念研究大会を開催することが決定しています。私は、退職を迎えていますがお手伝いをしたいと考えています。全国の教育会の会員の皆様からの応援もお願い申し上げます。

大学との連携

総務理事 (41S) 坂本 功

1. 教員採用試験対策講座3年生講義コース

東京理科大学生涯学習センターの公開講座「3年生講義コース」が平成23年10月2日からの毎日曜日9回行われ、理窓教育会の先生方16名が約80名の学生を指導しました。

2. 教員採用試験対策講座・合宿コース

東京理科大学生涯学習センターの公開講座「教員採用試験対策講座・合宿コース」で18名の理窓教育会の会員が指導を行いました。この講座は、野田セミナーハウスにて3月12.13.14日、2泊3日で男子約60名、女子約20名の教職を目指す学生が参加しました。

3日間の午前は「教育時事」「教科指導」「生徒指導」の講義の後、その教育課題に関する1200字程度の教育論文を作成し、そ

の論文をその日の内に添削し、個人指導を行いました。午後は「集団討論・場面指導」「個人面接」「模擬授業」の練習を行いました。二日目の夜は学生と理科大学の先輩である理窓教育会の先生との質問・討論コーナーが設けられ和気藹々とした懇談になりました。この合宿により、学生は実力を付けると共に、教職に就こうというモチベーションを高め、7・8月の採用試験に向かうものと思います。

3. 私学教員採用試験対策講座

教職支援センターの依頼により私学の教員採用試験対策講座を、1月31日に理窓教育会の先生を中心に行ないました。私学の教員志望の学生が増加しておりますが、情報不足や準備不足で、思ったような成果があがっていません。私学の教員採用の仕方、私学教員適性検査の過去問の解説、模擬授業、面接の仕方等の講義や練習を100名を超える学生が熱心に受講しました。

事務局より

1. 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は下記住所の大学会館7階の理窓会事務室内に置かれています。

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂2-6-1

PORTA 神楽坂7階 理窓会事務室内

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

なお、お急ぎの場合には、2の一般の連絡窓口にご連絡ください。

2. 一般の連絡窓口

教職課程指導室 坂本 功 (総務理事)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール isoskmt@rs.kagu.tus.ac.jp

3. 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 小久保正己(編集担当)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール kokubo@rs.kagu.tus.ac.jp

平成24年度 教員採用試験合格者数

平成24年3月3日 現在

校種	公立					私立					公私 合計	
	小学	中学校・高等学校			特別支援	合計	中学・高等学校					合計
		数学	理科	他			数学	物理	化学	生物		
北海道		3	1			4	1				1	5
福島			1			1						1
新潟			1			1						1
茨城		2				2						2
群馬		1				1	3				3	4
千葉		27	13			40	2	1			3	43
埼玉		8	4			12	5	1			6	18
東京		35	29			64	11	4			15	79
横浜	1	4	3			8		1			1	9
川崎			1			1						1
神奈川		3	1			4		1	1		2	6
静岡								1			1	1
愛知			2			2		1			1	3
岐阜		1	2			3		1			1	4
名古屋		1				1						1
大阪							3				3	3
三重		1				1						1
和歌山		1				1						1
長野			1			1	1				1	2
富山		1				1						1
岡山							1				1	1
香川		1				1						1
高知								1			1	1
山口			1			1						1
石川							1				1	1
宮崎							1				1	1
福岡							1				1	1
合計	1	89	60	0	0	150	29	12	1	0	42	193

23年度	1	89	60	0	0	150	30	12	1	0	43	193
22年度	2	112	26	0	1	141		6	4	0	69	210
21年度	0	89	18	1	1	109	39	8	1	0	48	157
20年度	0	48	21	1	3	73	23	4	1	0	28	101
19年度	4	49	15		3	71	14	2	2		18	89
18年度		28	6			34	24	4	4	3	35	69
17年度		34	7	1		42	16	2	2		20	62

昨年度までのデータは最終値、今年度のは現時点値である。

また、合格者数は延べ人数である。